令和８年度　愛媛県がん診療連携協議会
第２回がん看護専門部会　議事録

令和８年７月４日(土)　13:00~13:50
会場：四国がんセンター　暖だんミーティングルーム
司会進行：がん看護専門部会長　四国がんセンター　西前真里
出席者：出席一覧表参照

１．開会の挨拶　（四国がんセンター　西前真里看護部長）
部会長挨拶（13：00～）
　この部会では、専門性の高い魅力ある看護師を育成することで、部会の目的である看護師の資質向上と実践レベルの均てん化につながることを願っている。本日は、5 月 26 日 Web 開催した第１回がん看護専門部会でご意見のあった、がん看護実践能力向上研修会修了者の活躍状況について情報共有する予定としている。本日が皆様にとって、有意義な時間になることを願っている。

２．がん看護専門部会会員・出席者　　出席名簿参照
各部会員より自己紹介

３．議事
１）がん看護実践能力向上研修修了者の活動状況についての情報共有　（資料１・２）
資料１：「がん看護実践能力向上研修会修了者の活躍状況等について」
　対象は、愛媛県がん診療連携協議会の拠点病院、診療病院、推進病院の合計 16 施設で、令和８年６月に調査した。回収は 15 施設であり回収率は 93.75%だった。
　がん看護実践能力向上研修修了者の活躍状況については大きく３つに分類された。１．臨床実践・患者対応では、緩和ケアの実践・ＡＣＰへの関与など、現場のケアの質向上に確実に寄与していた。２．多職種連携・チーム活動では、緩和ケアチーム・化学療法チームなど院内横断的な活動にかかわる人材として機能していた。３．教育・普及活動では、スタッフへの教育・指導など「部署内教育者」としての役割は比較的実施されていた。
　活用が進んでいない・停滞している状況も 3 つの要因に分類された。1．人的要因（配置・ライフイベント）では、専門性が活きる配置が困難となっていた。２．活動の主体性不足では、「役割定義の曖昧さ」や「何をすべき人材か」が曖昧になっていた。３．組織的活動の不十分さでは、「終了後の仕組み（フォロー体制）が未整備であると考えられた。これらによる主な課題としては、①人材配置の問題②役割・ミッションの不明確さ③活動機会・場の不足④組織的フォローの不足であり、今後の方向性では、①配置の最適化②修了者の役割の明確化③委員会・プロジェクトへの位置づけ④修了者ネットワークの形成が提案された。

研修参加を行う上で重視していることでは､研修終了後の活躍､受講者自身の成長、具体的なスキルの獲得等が特に重要とされていた。研修内容について問題があるかについては、希望者の有無、適任者の有無の項目で問題があるという回答であった。

研修参加を促すうえでの困難な理由は５つに分類された。１．人員・業務体制の問題では、新人教育（夜勤導入期）と重なり中堅を出せないなどの人員不足により派遣が困難である。２．個人・家庭背景の制約では、夏休み期間・土日開催が負担など家庭・時間の要因により推薦が困難である。３．動機・意欲・レディネスの問題では、学習意欲・自信・余裕の不足で参加につながらない。４．研修内容・制度のハードルでは経験の不足・研修への負担感で候補者が出にくい、対象者が限定される。５．組織的支援・仕組みの不足では、研修後の活躍が見えないなどがあげられた。以上のことより､研修参加を促すうえでの困難な理由の全体構造として､人員不足（出せない）家庭事情（行けない）意欲低下（やらない）対象者不足（選べない）仕組み不足（続かない）といったことから、応援体制の整備・日程の検討、段階的育成、修了後の役割明確化、成果の見える化が提案された。

「研修修了者の活躍の今後の方向性について」の意見交換

・昨年度の研修参加者は、多職種での共有を目的に、拠点病院としての役割や多忙な病棟業務の中でどのような看護を行っているかといった内容の動画を作成した。研修生の強い思いに呼応するように、動画のアンケート中に研修希望者の氏名の記載欄を設け、3 名が記載し、そのうち 2 名が受講申し込みを考えている。
・研修に参加しただけで終わらせないよう、看護管理者や専門看護師・認定看護師が連携して、参加者の活躍の場を作れるよう心掛けている。
・外来化学療法センターに修了者を配置し、活動してもらっている。
・研修のファシリテーター企画委員として参加した看護師長が、研修後に人材発掘やがん看護実践活動に熱心に取り組んでいる。ファシリテーターとしての参加も、参加したスタッフ自身の育成につながっていると感じる。
　→企画委員としての推薦を 8 月 6 日の開講式に間に合うようにお願いしたい。

「研修を促すうえでの対策」について意見交換

・ファシリテーターからの密接な指導・教育機会は自施設では設けにくく、本研修は貴重な機会であると考えている。参加者の満足度が高いと次の研修参加希望につながりやすいと感じる。(参加者が直接後輩に参加を勧める、参加者からの推薦など)
・アンケート結果に新人看護師の自立までの時期を避けてほしいとの記載があったがどの時期であっても人手不足には変わりない。研修参加者を出せないのは研修時期やプログラムの問題ではない。
・コロナ禍では複数人の欠員が常態となっていたが、看護業務は回っていた。予定された研修であれば対応は可能であると看護師長をはじめとした管理職のマインドをリセットできるよう働きかけていくことも必要である。
・研修時期は決まっているので、あらかじめ計画性をもって「このスタッフを、この時期に研修に出す」と看護師長に伝え準備できるよう働きかけている。

・病院として研修に出すことを想定した人員配置をすることも必要である。

その他
・外来通院治療室を利用し、外来患者が午前、入院患者は午後で実施している。午後は病棟看護師が担当する予定であったが、外来看護師に依頼をすることが増えている。他病院においても、入院患者の抗がん剤治療を外来看護師に依頼することが増加しており、抗がん剤投与が行える病棟看護師が減っていることが課題となっている。
→外来看護師と病棟看護師を業務シャッフルし（曜日毎）その中で教育している。相互の部署で教育成果が上がっている。
・抗がん剤の薬剤量を看護が実施している施設があるが、多くの施設では薬剤師や医師が投与量を計算しているとの情報あり。

令和８年度がん看護実践能力向上研修の応募締め切りが 7 月 14 日となっている。今一度各施設で声をかけて頂きたい。

次回は 2027 年 1 月 26 日（火）13 時～14 時 Web 開催予定である。議題は主にがん看護専門部会研修についてとなるが、希望の内容があれば事前に連絡いただきたい。

以上をもって閉会となった。
◇添付資料
１．がん看護専門部会レジュメ
２．会員名簿・出席表
３．がん看護実践能力向上研修修了者の活動状況等について
結果報告資料（資料１・２）

（出席者一覧）　　部会名簿

施設名		職位	氏名（敬略）	出欠	
四国がんセンター	県拠点病院	看護部長	西前　真里	出	
住友別子病院	拠点病院	看護部長	守屋　昭子	出	
市立宇和島病院	拠点病院	副院長兼看護部長	久米　理恵	出	
済生会今治病院	拠点病院	副院長兼看護部長	児島　有希子	出	
愛媛大学医学部附属病院	拠点病院	副院長兼看護部長	山本　美津子	出	
愛媛県立中央病院	拠点病院	看護部長	松原　理香	欠	
松山赤十字病院	拠点病院	看護部長	長谷部　徳恵	出	
四国中央病院	診療病院	看護部長	石川　美保	出	
HITO 病院	県推進病院	看護部長	﨑田　智美	出	
愛媛労災病院	県推進病院	看護部長	髙橋　令子	出	
十全総合病院	県推進病院	看護部長	水田　史子	出	
済生会西条病院	県推進病院	副院長兼看護部長	大道　美由紀	出	
松山市民病院	県推進病院	看護部長	上岡　由美子	欠	
済生会松山病院	県推進病院	看護部長	井上　信彦	出	
市立八幡浜総合病院	県推進病院	看護部長	岡　君佳	出	
西条中央病院	県推進病院	看護部長	村上　笑子	出	
四国がんセンター		副看護部長	黒瀬　水紀	出	
〃		看護師長	平田　久美	-	＊緩和部会
〃		看護師長	向　涼子	-	＊緩和部会
〃		副看護師長	宮脇　聡子	出	
〃		副看護師長	羽澤　昌里	出	